



現代社会にマッチした里山を創ろう!!

かつての里山

生産機能が重視されていたため、つねにオーバーユース（使いすぎ）の状態でした。

そして昭和 30 年代以降は、地域に暮らす人々が燃料や肥料を必要としなくなったため、森林は放置されました。

地域に暮らす人々

森林



生産機能

肥料や燃料

環境機能

文化機能

- ・生活の場としての利用と知恵
- ・感性や創造力の涵養

「現代版」里山

多様な主体とともに、里山の機能をバランス良く活かしながら、現代社会が求める里山を目指します。

県民
(公園サポーター)



行政（滋賀県森林政策課）
「森の資源研究開発事業」

大学生



高校・中学生



専門家



企業



公園

生産機能

バイオマス・エネルギー
薪ストーブ・堆肥

環境機能

生物多様性・気候緩和
二酸化炭素の吸収源

文化機能

環境教育・森林セラピー
レクリエーション・景観



公園を現代社会における「新しいcommons」にすることが可能